

学会記事

??

第 27 回通常総会開催のお知らせ

役員選挙

第 14 回論文賞および第 1 回ソフトウェア論文賞

論文賞・解説論文賞候補推薦のお願い

日本ソフトウェア科学会第 27 回大会開催案内・発表募集

2010 年度研究会活動予定

名誉会員の決定について

会員事務管理委託先の変更について

研究会開催通知・論文募集，チュートリアル開催通知，教員募集（教育機関以外の人材募集の場合は事前にご相談下さい）へ投稿される方は，下記宛に原稿をお送り下さい．電子メールの場合は，件名を“JSSST newsletter”としてテキスト形式でお願いします．紙面の都合により無断で記事の一部抜粋や割愛をさせていただくことがありますので予めご了承下さい．原稿締切は 2，5，8，11 月の 25 日，掲載は翌々月発行の「コンピュータソフトウェア」です．

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル内

日本ソフトウェア科学会 ニュースレター係

E-mail: jssst_newsletter@jssst.or.jp

学 会 記 事

第 27 回通常総会開催のお知らせ

日本ソフトウェア科学会理事長

湯浅 太一

日本ソフトウェア科学会定款第 29 条により，第 27 回通常総会を以下のとおり開催いたします．

なお，総会の開催にあたっては定足数を要します（定款第 34 条）ので，別途郵送する総会出席案内への返信で，出欠のご連絡（欠席される場合の委任状のご提出を含む）をお願いします．

記

日 時：2010 年 6 月 9 日（水）18:00 ～ 20:00

場 所：東京大学山上会館会議室 001（地下）

議 題：議事 第 1 号議案 2009 年度事業報告

第 2 号議案 2009 年度決算報告

第 3 号議案 2010 年度事業計画

第 4 号議案 2010 年度予算審議

その他

表彰 基礎研究賞，論文賞，ソフトウェア論文賞，高橋奨励賞の授賞
名誉会員記の授与

役員選挙

2009 年 12 月 15 日に公示された 2010 年度役員選挙（理事 8 名，監事 1 名）において，2010 年 1 月 22 日まで候補の推薦を受け付けました．その結果，理事候補として 8 名，監事候補として 1 名の推薦がありました．推薦を受けた全員が役員候補者選考委員会にて候補者として選考され，2010 年 3 月 20 日までの期間の正会員による投票に付されました．同時に役員選挙候補者選考委員の正会員による審査も行われました．正会員 978 名中 308 名（約 31%）からの投票があり，結果は次の通りでした．

理事選挙（有効投票数 308）

亀山 幸義（288） 胡 振江（285） 河野 健二（283） 権藤 克彦（291）

高橋 和子（281） 橋田 浩一（288） 廣津 登志夫（281） 村田 真（283）

監事選挙（有効投票数 308）

中谷 多哉子（296）

役員候補者選考委員 不信任票（有効投票数 308）

井田 哲雄（1） 井上 克郎（1） 佐藤 雅彦（1） 近山 隆（0）

中島 秀之（2）

この結果，理事候補，監事候補全員がそれぞれ理事，監事として選出され，2010 年 4 月 1 日から 2012 年 3 月 31 日までの役員を務めることになりました．また，役員候補者選考委員全員が信任を受けました．なお，この選挙における選挙管理委員会の構成は次の通りでした．

選挙管理委員会

大和田 勇人（委員長）

河谷内 清久仁 紀 信邦 佐藤 周行 柴山 悦哉 平田 圭二 松本 健一

第 14 回論文賞および第 1 回ソフトウェア論文賞

日本ソフトウェア科学会は，第 14 回論文賞および第 1 回ソフトウェア論文賞をそれぞれ以下の方々に授与することを決定し，第 27 回通常総会において表彰します．

今回の対象論文は，論文賞については，2008 年 1 月から 10 月までに発行された「コン

「コンピュータソフトウェア」(第 25 巻)に掲載された研究論文(ソフトウェア論文は対象外)、ソフトウェア論文賞については、2007 年 1 月から 2008 年 10 月までに発行された「コンピュータソフトウェア」(第 24 巻, 25 巻)に掲載されたソフトウェア論文です。会員からの推薦受付後、論文賞選定委員会およびソフトウェア論文賞選定委員会において検討、選定し、理事会で決定しました。

【論文賞】

- (1) 千代 英一郎: 宣言的なコンパイラ仕様記述を支援するための識別子にもとづく中間表現, Vol. 25, No. 3 (2008), pp. 113-134 (PPL2007 推薦論文)

選定理由: 本論文は、宣言的なコンパイラ仕様記述を可能にする中間表現を提案し、その有用性を現実の商用 C コンパイラに適用し評価している。宣言的な記述は、プログラム解析や最適化に関する理論的研究と親和性が高いという特長がある。提案された中間表現は、いわばオブジェクト ID を扱える関係データベースのようなものである。それ自体は決して目新しいものとは言えないが、コンパイラ仕様記述へと適用したところに新規性がある。またケーススタディとして、著者らが開発する商用 C コンパイラに適用している。数十万行規模の C プログラムを対象として実証実験を行い、型検査やデータフロー解析などで良好な結果を得ていることは、高い評価に値する。以上の理由から本論文は本学会の論文賞にふさわしいと判断する。

- (2) 権藤 克彦, 川島 勇人, 今泉 貴史: TBCppA: 追跡子を用いた C 前処理系解析器, Vol. 25, No. 1 (2008), pp. 105-123 (FOSE2006 推薦論文)

選定理由: C 言語では、前処理系(以降 CPP と略す)による処理を行った後、構文解析やそれに基づくプログラム解析が行われる。しかし CPP 処理によりマクロ名等に関する情報が消失するため、開発ツール等で望まれる精度の高いプログラム解析が行えない。そこで本論文では、CPP による処理前後のソースプログラム間の対応関係を自動取得する新しい手法を提案している。CPP の仕組みは複雑でありその振舞いの解析は容易ではない。本論文では、(1) 従来研究のように CPP を模倣したり CPP を改造するのではなく、ソースプログラムに追跡子を埋め込み、それらが CPP 処理後のプログラムにどう配置されたかを観測して対応関係を取得するという、シンプルだが極めて効果的な着想を用いたこと、および、(2) CPP の複雑な仕組みに依存する個別の問題を豊富な知識と技法を総動員して根気強く解決したことによって、実用上十分な高さの精度を達成すると同時に、その限界についても明確に論じており、この種のテーマを扱う論文としては極めて完成度が高い。以上の理由から本論文は本学会の論文賞にふさわしいと判断する。

【ソフトウェア論文賞】

- (1) 中田 育男, 渡邊 坦, 佐々 政孝, 森 公一郎, 阿部 正佳: COINS コンパイラ・インフ

ラストラクチャの開発, Vol. 25, No. 1 (2008), pp. 2-18 (「最新コンパイラ技術と COINS による実践」特集)

選定理由: 本論文は, 大型研究予算 (文部科学省科学技術振興調整費, 5 年間各約 1 億円) を用いて行われた, コンパイルインフラストラクチャの研究結果の概要を述べたものである。大規模で, 高水準, そして社会貢献性が高いと認められるソフトウェアの研究開発を分かりやすく説明している。日本の代表的なコンパイラ研究者を含む開発者 15 名以上, Java で 26 万行, ターゲットマシン 8 機種対応という大規模なソフトウェアシステムを開発しており, 日本のコンパイラ技術の水準を高めるのに大いに貢献したと認められる。膨大な数のテストプログラム (SRA で開発された約 8000 個のテストプログラムを含む) によるテストや, SPEC CPU2000 を含むベンチマーク等により, その有効性を検証している。本システムを利用したソフトウェア開発論文も既に発表されており, 実用レベルに達したソフトウェアであると考えられる。以上のように, 本論文はソフトウェアと設計と実装, そして論文記述を極めて高い水準で行っており, 本賞受賞にふさわしい論文である。

第 14 回論文賞の選定委員は以下の通りです。

選定委員長 本位田 真一

選定委員 大沢 英一 柴山 悦哉 住井 英二郎 関 浩之 平田 圭二
真野 健

第 1 回ソフトウェア論文賞の選定委員は以下の通りです。

選定委員長 本位田 真一

選定委員 明石 修 加藤 和彦 河野 健二 権藤 克彦 豊田 正史
平田 圭二

論文賞・解説論文賞候補推薦のお願い

日本ソフトウェア科学会は, ソフトウェア科学・工学の発展を奨励することを目的として, 論文賞・解説論文賞・ソフトウェア論文賞を設けています。本年度は, 論文賞と解説論文賞に関して, 会員各位からの候補論文の推薦を以下の要領で受け付けます。ふるってご推薦ください。

【対 象】論文賞の対象は, 2009 年に発行された「コンピュータソフトウェア」(第 26 巻) に掲載された研究論文 (第 1 ページ脚注に [論文] または [研究論文] の表示のあるもの)。解説論文賞の対象は, 2008 年～2009 年に発行された「コンピュータソフトウェア」(第 25～26 巻) に掲載された解説論文・記事 (解説, チュートリアル, ソフトウェア紹介, フォーラム, トピックス, パイオニア)。

【表彰の方法】論文賞選定委員会および解説論文賞選定委員会において審査の上, 優秀な論文・記事の著者に賞状と副賞 (5 万円) を授ける。著者が複数人の場合は, 賞状は各人

に授与する。ただし、論文賞の受賞代表者は本学会の正会員または学生会員であることを要する。表彰の件数は、論文賞は2件以内、解説論文賞は1~2件とする。

【推薦の方法】自薦または他薦とする。

【提出書類】A4用紙に論文題目、論文掲載巻・号・年、著者氏名、推薦理由、推薦者の氏名・所属・連絡先を記載した推薦書を提出する。推薦者と被推薦者との関係について特記事項がある場合は説明を付す。

【推薦書類提出締切】2010年6月30日

【推薦書類提出先】〒113-0032 東京都文京区弥生2-14-16 学会センタービル内日本ソフトウェア科学会事務局

日本ソフトウェア科学会第27回大会開催案内・発表募集

日本ソフトウェア科学会第27回大会を次の要領で開催します。

日時 2010年9月13日(月) ~ 15日(水)

9月11日(土) ~ 12日(日)に併設イベントを行う予定です。

会場 津田塾大学 小平キャンパス

大会委員長 小川 貴英(津田塾大学)

運営委員長 新田 善久(津田塾大学)

プログラム委員長 細部 博史(国立情報学研究所)

今年の大会は変わります！

今年の大会では招待講演、一般の登壇発表、デモ・ポスター発表、併設のチュートリアルに加えて、以下の新しい企画を準備中です。

研究会セッション 研究会と連携して企画を行うことで、発表者にも聴講者にも有益で楽しめるセッションを実現します。

ソフトウェア論文セッション 先進的なアイデアを実現したソフトウェアについての成果発表の場を提供します。

学生セッション 学生を対象に広く発表を募集し、これからのソフトウェア研究を皆で考えます。

詳しい情報については随時、大会ホームページ

<http://www.informaticians.org/jssst2010/>

に掲載します。奮ってご参加ください。

乞う御期待!!

登壇発表、デモ・ポスター発表の申込要領は以下の通りです。特に優秀な登壇発表に対しては「高橋奨励賞」(故高橋秀俊先生にちなむ賞)が与えられます。さらに登壇発表の

予稿は学会誌へ同時に投稿することができます。

対象分野 ソフトウェア科学全般

登壇発表申込 登壇発表者は日本ソフトウェア科学会の正会員または学生会員に限ります。ただし、発表申込時に入会手続き中である場合も含まれます。

登壇発表申込締切 6月25日(金) 必着

予稿原稿締切 8月2日(月) 必着

デモ・ポスター発表申込 ポスター掲示に加えて、ノート PC 等を持ち込んでのデモも可能です。登壇発表と同じ内容でのデモ・ポスター発表も歓迎します。発表者の少なくとも1名が日本ソフトウェア科学会の正会員または学生会員であることが必要です。ただし、発表申込時に入会手続き中である場合も含まれます。

デモ・ポスター発表申込締切 予稿のない場合は8月13日(金) 必着、予稿のある場合は登壇発表と同じです。

2010 年度研究会活動予定

日本ソフトウェア科学会では、今年度以下のような活動を予定しております。詳細は各研究会の主査、もしくは連絡先までお問い合わせください。また、最新情報は学会の Web ページ <http://www.jssst.or.jp/> に随時掲載いたします。

【ソフトウェアシステム研究会】

ソフトウェアに関する先端的な学術研究と実際のソフトウェア開発における最新の研究成果の発表、新たな研究課題についての討論やアイデア交換をおこなう場を設けソフトウェアシステムの発展に寄与することを目的とする。

主査 廣津 登志夫 (法政大学, sc-chair@spa.jssst.or.jp)

活動予定

・ 未定。

【プログラミング論研究会】

プログラミングの理論と実践に関する研究討論および研究発表の場を提供することを目的とする。

主査 五十嵐 淳 (京都大学, igarashi@kuis.kyoto-u.ac.jp)

活動予定

・ FLOPS2010 (The 10th International Symposium on Functional and Logic Programming)

日程: 2010 年 4 月 19 ~ 21 日 / 場所: 東北大学青葉記念会館 (仙台市青葉区)

- ・ PPL2010 からコンピュータソフトウェア誌へ推薦論文の提案 .
- ・ 第 8 回プログラミングおよびプログラミング言語サマースクール
日程 : 2010 年 9 月 / 場所 : 津田塾大学
幹事 : 石崎 一明 (日本 IBM)
備考 : 日本ソフトウェア科学会大会に併設 .
- ・ 第 13 回プログラミングおよびプログラミング言語に関するワークショップ (PPL 2011)
日程 : 2011 年 3 月 / 場所 : 未定
プログラム委員長 : 浅井 健一 (お茶の水女子大) , 河内谷 清久仁 (日本 IBM)
実行委員長 : 松崎 公紀 (高知工科大学)

【マルチ・エージェントと協調計算研究会】

分散環境におけるマルチエージェントシステムと協調計算機構の構築を目的とした研究者の議論の場を提供することを目的とする .

主査 大沢 英一 (公立はこだて未来大学 , osawa@fun.ac.jp)

活動予定

- ・ 合同エージェントワークショップ & シンポジウム (JAWS2010)
日程 : 2010 年 10 月 27 日 ~ 29 日 / 場所 : 富良野プリンスホテル
大会委員長 : 大沢 英一 (公立はこだて未来大学)
プログラム委員長 : 櫻井 祐子 (ヤフー)
実行委員長 : 川村 秀憲 (北大)

【インタラクティブシステムとソフトウェア研究会】

人とコンピュータのインタラクションをテーマにする研究者が集い , インタラクティブシステムの構成原理 , 実装 , ソフトウェア技術について議論することを目的とする .

主査 後藤 真孝 (産総研 , m.goto@aist.go.jp)

活動予定

- ・ 第 18 回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ Workshop on Interactive Systems and Software (WISS 2010)
日程 : 2010 年 12 月 1 日 (水) ~ 3 日 (金) / 場所 : 未定
プログラム委員長 : 後藤 真孝 (産総研 , m.goto@aist.go.jp)
運営委員長 : 福地 健太郎 (JST , fukuchi@megui.net)

- ・ コンピュータソフトウェア誌 2011 年 5 月号で特集を組む .
- ・ 情報処理学会インタラクション 2010 に協賛する .

【ソフトウェア工学の基礎研究会】

情報技術の普及を支えるソフトウェア工学の基礎技術の確立をめざし，科学と工学の相乗効果を生むような議論の場を提供する．基礎技術の応用方策や，実践からの基礎技術の抽出に関する議論も含む．

主査 権藤 克彦 (東京工業大学, gondow@cs.titech.ac.jp)

活動予定

- ・ ワークショップ FOSE2010

日程：2010 年 11 月下旬 / 湯沢温泉

プログラム委員長：高田 眞吾 (慶応大学)，福田 浩章 (慶応大学)

【インターネットテクノロジー研究会】

インターネットを中心とするネットワーク技術に関する研究，開発，討議を行なう場を設け，我が国におけるネットワーク技術の発展に寄与することを目的とする．

主査 寺岡 文男 (慶應義塾大学, tera@ics.keio.ac.jp)

活動予定

- ・ 第 11 回インターネットテクノロジーワークショップ (WIT2010)

日程：2010 年 6 月 24 日 (木) ~ 25 日 (金) / 場所：山形テルサ (山形県山形市)

運営委員長：木村 泰司 (日本ネットワークインフォメーションセンター)

プログラム委員長：藤本 衡 (東京電機大学)

URL: <http://wit.jssst.or.jp/2010/>

- ・ インターネットコンファレンス (IC2010)

日程：2010 年 10 月下旬 / 場所：関東地区

実行委員長：未定

プログラム委員長：未定

URL: <http://www.internetconference.org/>

- ・ コンピュータソフトウェア「ネットワーク技術」特集

論文投稿〆切：2010 年 7 月 15 日

刊行予定：2011 年 5 月号

【ディペンダブルシステム研究会】

本年度も、合宿形式で密なコミュニケーションを図るワークショップと産学双方からバランスのとれた参加を得ることを目指すシンポジウムの二つの企画を実行し、この方面の研究を促進したい。幹事4名で催し物を開催する他、新年度早々に連絡委員会をつくって、催し物についての連絡を行う。

主査 河野 健二 (慶應義塾大学, kono@ics.keio.ac.jp)

幹事 光来 健一 (九州工業大学, kourai@ci.kyutech.ac.jp)

幹事 高井 利憲 (産業技術総合研究所, t-takai@aist.go.jp)

活動予定

- ・第8回 ディペンダブルシステムワークショップ (DSW'10summer)

日程: 2010年7月頃 / 場所: 未定

幹事: 前田 俊行 (東大), 高井 利憲 (産総研)

合宿形式で内容の濃い議論, 討論をおこなうことをめざす。

- ・第7回 ディペンダブルシステムシンポジウム (DSS2010)

日時: 2010年12月頃 / 場所: 未定

幹事: 杉木 章義 (筑波大), 水野 修 (京都工芸繊維大学)

産学からのバランスよい参加を得ることをめざす。

【ネットワークが創発する知能研究会】

「ネットワークダイナミクス」と「ネットワークが創発する知能」をキーワードとして、コンピュータサイエンス, 物理学, 化学, 生物学, 経済学, 社会学など様々な分野の研究者の交流の場を提供するとともに、当分野における高いアクティビティの発揮を目指す。

主査 中島 秀之 (公立はこだて未来大学)

幹事 栗原 聡 (大阪大学, kurihara@ist.osaka-u.ac.jp)

村田 剛志 (国立情報学研究所, tmurata@nii.ac.jp)

活動予定

- ・第5回国際ワークショップ (WEIN2010)

日程: 2010年5月10日 (月) / 場所: トロント (カナダ)

<http://web.sg.ethz.ch/workshops/wein2010/>

プログラム委員長: Frank Schweitzer (ETH Zurich, Switzerland)

- ・国内 Summer ワークショップ

日程: 未定 / 場所: 未定情報処理学会知能と複雑系研究会, 同学会数理モデル化と問題解決研究会協賛の可能性あり。

プログラム委員長: 風間 一洋 (NTT 未来ねっと研究所)

120 人程度の参加者を予定．招待講演企画，査読なし．

・ 国内 Autumn ワークショップ

日程：9 月下旬 / 場所：未定

プログラム委員長：柳井 孝介（日立製作所中央研究所）査読あり，20～30 人合宿形式．

名誉会員の決定について

名誉会員は本会定款において次のように定義されています．

計算機ソフトウェアに係わる科学・技術に関し功績顕著な者および本会の目的達成に多くの貢献をした者で，理事会の承認を経て推薦された者

2010 年 1 月 14 日の理事会において下記の 2 名が名誉会員に推薦され，承認されました．学会創設以来，はじめての名誉会員となります．2010 年度の総会において名誉会員記が授与されます．

【新名誉会員氏名および推薦理由】

大野 豊 氏

1924 年に東京都でお生まれになり，東京大学工学部機械工学科を 1946 年にご卒業後，運輸省鉄道技術研究所に奉職され，鉄道の自動制御，オンラインリアルタイムシステムの研究に従事されました．みどりの窓口や新幹線列車運行管理システムなどの開発にもご尽力され，その功績から 1971 年紫綬褒章を始め多くの表彰を受けられました．1972 年からは京都大学情報工学科の教授として，ソフトウェア工学の研究分野の確立に大きな貢献をされました．京都大学を定年退職後は，立命館大学で理工学部長として BKC（びわこ・くさつキャンパス）への移転に際して，その経営手腕を発揮されました．また，関西 TLO 社長として技術移転を主とした産学連携を支援されました．日本ソフトウェア科学会への貢献は，その設立を企画し，各方面への働きかけを行い，1983 年に本学会設立と同時に初代理事長として，学会の基礎を築かれたことで，その功績は極めて大きいものであります．これらの功績に対して，2003 年には本会特別功労賞を，2004 年には本会フェローの称号を授与されています．よって大野豊氏を名誉会員に推薦いたします．

中田 育男 氏

1935 年に長野県でお生まれになり，東京大学理学部数学科，同大学院修士課程をそれぞれ 1958 年，1960 年にご卒業後，日立製作所中央研究所に奉職されました．日立製作所中央研究所では言語処理系の研究に従事され，当時世界中で開発競争が盛んであった FORTRAN コンパイラの開発に尽力され，HITAC103 用 FORTRAN II コンパイ

ラ, HITAC5020 用 FORTRAN VI コンパイラを提供されましたが, それらは世界最高水準のものとして注目されました。また, 1979 年より筑波大学電子・情報工学系教授を勤められ, 定年退職後も図書館情報大学教授, 法政大学情報科学部教授として教育研究に尽力されております。文部科学省科学技術振興調整費に基づくプロジェクト「並列化コンパイラ向け共通インフラストラクチャの研究」の研究代表者として, また, 多くの大学で教科書として採用されている先生の著書などにより, 日本のコンパイラ技術の向上に貢献されています。日本ソフトウェア科学会への貢献は, 1988 年より第 2 代の本学会学会誌編集委員長として, 学会誌編集に尽力されたことで, その功績は極めて大きいものであります。これらの功績に対して, 2003 年には本会特別功労賞を, 2004 年には本会フェローの称号を授与されています。よって中田育男氏を名誉会員に推薦いたします。

会員事務管理委託先の変更について

2010 年 4 月 1 日より会員事務管理の委託先を下記のように変更いたしましたのでお知らせします。

名称: 特定非営利活動法人 お茶の水学術事業会

住所: 〒112-8610 文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 理学部 3 号館 204

お茶の水学術事業会内 日本ソフトウェア科学会担当

電話&FAX: 03-5976-1478

Web サイト: <http://www.npo-ochanomizu.org/>

メール: jssst-info@npo-ochanomizu.org

以上